



## 神戸国際大学

キリスト教センター通信

2024年12月10日 第122号

### クリスマスはいつから？

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉哲哉

私たちは日本で暮らしている、年が改まる正月つまり1月はひとつの区切りであるだけでなく、他の季節とは異なって特別であることを感じます。他の国では大晦日から新年にかけてカウントダウンで夜通し騒いだりします。最近の日本では「お正月」を以前ほど嬉しいとか楽しいと感じることは少なくなりつつあるようですが、気持ちが新たになる、久しぶりに故郷の家族や親戚と会うなど、やはり特別な季節に変わりありません。

しかし、それだけで特別かというところではなく、もしかしたら神さまが降りてくるから特別なのかも知れません。日本では新年に先祖の霊が年神さまになってそれぞれの家を訪れて幸せをもたらすとされており、門松を立てるのはその年神さまを迎えるためとされています。正月がただ嬉しいとか楽しいとかではなく、気持ちを引き締めようと私たちが思うのはこんなところにあるのかも知れません。

キリスト教の世界は12月になると暦が新しくなります。クリスマスは12月25日ですが、クリスマスを迎えるまでに4週の日曜日を過ごすので、聖公会の暦によると2024年は12月1日が降臨節第1主日となり、この日からクリスマスを迎えるシーズンに入ります。従って、ハロウィーンが終わったらクリスマス飾りで溢れる日本は、おおいにフライングということになります。クリスマスに向けて浮かれた気持ちになることが多いのですが、華やかなイベントを前にしたこの節は、実は本来は大騒ぎなどせず静かにイエスの誕生を待つ季節なのです。



海外のキリスト教国では24日クリスマスイヴはなるべく仕事を早く切上げて家へ帰り、家族や親しい友人達とクリスマスを祝い、教会で祈りを捧げます。そして25日のクリスマスはまた教会へ出かけて礼拝に参加し、夕方には家族でゆっくり食事を楽しみながらクリスマスを祝います。従って、クリスマスイヴの遅い時刻、クリスマスの昼までは、街は人通りも少なくとても静かで、日本のクリスマスの様子とはかなり異なります。

では、クリスマスが終わるのはいつでしょうか。クリスマスは12月25日ですが、海外では年を越して1月半ばころまで街はクリスマス飾りのままです。25日が終ると26日朝の開店までに徹夜でお正月飾りに変身する日本のデパートのようなことはありません。なぜなら25日を過ぎても1月1日がイエス命名日、6日は顕現日(イエスのデビュー)、13日は受洗(洗礼を受けた)日で、ここまでが一連のクリスマスとなっていて、まるで静かにクリスマスの余韻を楽しんでいるかのようです。

